

「いのち」と「暮らし」にアシスト

新田真一議会だより



12月議会

NO3

編集・発行 新田 真一

三次市十日市東3-5-1 貝塚ハイツ

TEL 0824-69-0515

急な病气やけがで
救急車を呼ぶ？
病院へ行く？
迷ったら

「救急相談センター」
広島広域都市圏へ電話
#7119
つながらない場合や、山口県のエリア
から携帯電話でかける場合は
082-246-2000

広島市HPより

新田 三次市立中央病院の救急医療は、一か月平均一〇〇人以上の患者の受け入れを行っています。大変な数です。広島市は周辺の一五市町で広域都市圏をつくり消防庁の取り組みである救急相談窓口を開設しています。

救急医療体制の拡充をもとめる

一二月の定例会が、一月六日から一八日まで行われ一般質問と補正予算案の審議が行われました。学校給食調理場再編計画の策定会議が非公開になったことをめぐって多くの議員が、市民に対して市が施策を決定していく過程を情報公開することの必要性を訴えました。わたしも調理場の再編計画については災害対応・食教育推進の視点で一般質問を行いました。

病气やけがで迷ったときに電話で相談を受け付けるシステムです。これによっていつこの医療機関を受けるのが適切であるかの情報を提供しています。



三次市も可能であればこの都市圏に加入するか、また北部の周辺市町に働きかけこうした窓口を設けることができないでしょうか。また県全体での窓口の設置も考えてよいのではないかと思います。窓口の開設によって、病气やけがで不安を抱えるみなさんよりの確かな情報もたらされることで、月平均一〇〇人の受け入れもいくらか緩和されるのではないのでしょうか。それは同時に病院の負担を軽減し、より良い医療サービスが提供されることにつながると考えます。

福祉保健部長

紹介がありました救急相談センターが今年の一月より始まり効果を上げていっていると聞いています。現在三次市はこの広域都市圏に加入はしてはいません。利用が可能であるなら、調整も考えたい。現在中央病院で二四時間の救急体制



で対応できていますが、活用効果について地域の特性も考慮し医師会・中央病院・備北消防組合とも協議をする必要もあると思います。現在福山地区でも同様のとりくみがあると聞いています。それらも踏まえながら県へも相談する必要もあるうと思っています。

学校給食調理場再編計画について

新田 給食センターが、災害に遭った場合に、その復旧に一年を要し給食が提供されない事例が多く起こっています。また、三次市の定住対策のひとつとして、安心安全でおいしい給食もその一つであると考えます。三次市としてどうお考えでしょうか。



市長

公共施設の整備を進めなくてはならない、必要性を十分に検討し決定していただく。老朽化も進み子どもたちへ安心安全な給食を届けるために早急な整備が必要です。災害への対応については、給食センターの多機能化についても議論をいただいています。



一般質問を行う

新田

策定委員会での自由闊達な意見交換が行われ、計画が決定していくことを期待する。しかし、策定委員会へ示された資料は、具体的な調理場再編案は一つ（現在6箇所を旧市内一カ所へ再編）だけで、そのほかの調理場の再編・意見には「市の見解」として否定的な意見が示されている。これでは自由闊達な意見交換は無理だと思えます。より具体的な再編案が、二・三案示されて比較検討することで議論も深まるものと考えます。そこで、私案として旧市内四カ所に調理場を再編する案を考えました。給食の最もよい条件は自校給

食です。それが財政的な理由により、共同調理場に譲歩してきたのです。この案ではコストは、市の示す案の二倍はかかります。しかし、食育推進の中心となる栄養教諭の減も押さえられ、災害対応 アレルギー食への対応も細やかに、地産地消も進められると考えます。
こうした具体案を示されること
が、策定委員会での議論をより深めていくと考えます。

教育次長

市としての案は示している。そのほかのいくつかの再編案についての市の見解も含めてたたき台として委員会で論議いただきたい。

「三次市学校給食調理場再編に関する陳情書」の採決

給食問題について。その情報が広く保護者の議論になっていない、情報提供も十分なされていないことを問題と考える保護者の有志のみならず「給食問題を考える保護者の会」を作られ、策定委員会へ委員の公募を求める陳情書を提出されました。わたしも趣旨に賛同し陳情書の採択について賛成の討論を行いました。採決が行われましたが、賛成一〇反対一二で残念ながら採択されませんでした。

一二月の給食問題策定委員会が開かれました。委員会は公開となり、議事録も作成されることになりました。私の示した四調理場案も資料として提出されました。委員からこの四調理場のメリットはなにと質問が出されましたが、事務局の答弁は十分であったと思います。

全員協議会で
三次市教育大綱を協議。

学校司書の配置と。児童生徒への一人一台のタブレット・パソコンの配置を来年度より研究指定校から初めて行きたい説明がありました。公費で配置すること、指導する教職員の研修体制を整備することを訴えました。子どもたちの活字離れはパソコン・タブレットやスマホなどの普及が大きな要因となっていること



普及が大きな要因となっていること

が教育総合会議でどう論議されたかを質問しましたが答弁はありませんでした。
タブレットの整備が進み便利な道具として使う力をつけることは大切なことですが、子どもたちが物事を調べたり考えたりしていく過程には図書館で実際に本をとり、何をどう調べたらよいか、本を読みながら必要な情報をどう選ぶことも大事な学習です。



四月三次市議会選挙が行われます。本年もよろしく願います。